

次期堺市中区地域計画（骨子案策定に向けての考え方）について

Q1 現行計画のKPI達成状況について、各指標における評価は正しくできていたと思いますか。ご意見ください。

伊藤 久美子	<p>すべての分野においてはKPIの達成度はUPしているものの、</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 福祉の分野における指標については、区や相談員さん等では窓口を設け、取り組んではいただいているようだが、悩みなどの聞き取り調査で終わっていて、実際のかかりつけ医を増やすところにはまだはいたらなかった点については、思ったより現状値が低くて残念ではあるが、更なる意識改革や仕組みづくりが必要だと思う。 ● 環境や歴史文化の分野における指標については、様々な取組を進めていることは普段目にすることも多く、知っていたので、現状値が高いことは理解できるし、更なる美観についても期待もしている。
今西 千晶	<ul style="list-style-type: none"> ● 福祉について→0.9減少ですが、元々の計画策定時から値が高く意識が高いのだと安心していました。ですが、高齢者等実態調査からの数値と記載がありましたので、若い方も意識を高めていただくための検討も今後は必要だなと感じました。 ● 健康について→KPI上昇で安心しました。今後も継続して若い世代から健康に興味を持ってほしいと思います。若いころから健康に興味をもち予防対策をすることで、高齢者になっても元気な高齢者でいられるからです。 ● 健康の相談先について→保健センターや地域包括支援センターや病院などの周知が進んでいるのだと感じています。今後も、イベントやセミナーなど市民啓発を継続してほしいと思います。 ● 気になる点→KPIの数値に乗ってこない方たち、とくに高齢者・障がい者・生活が困窮している方たちの中にたくさんいるのではないかと実感しています。相談先を知らない、相談できない、相談しようと思わない、という方たちをどうやって福祉の手から取りこぼさないようにできるのかを考えたいです。
太田 佳世	<p>特に気になるところは無かったです。 子育てのところで、「子育てしやすいまち」というのはどのような事をイメージされてでしょうか。</p>
金澤 正巳	<ul style="list-style-type: none"> ● 安全や交流の分野において現状値が低いが、自治会の加入率をどう上げていくかが課題である。 ● 安全の分野における評価において、校区単位で防災訓練に取り組んでいるが、実施するのはもちろんのこと、実際に参加した人数も重要と思う。 ● 交流の分野において、地域においては高齢者の集まりはあるが、そのコミュニティにどのように若い世代を巻き込んでいくかが必要である。

<p>澤本 美奈子</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 健康の分野 地域のドラッグストアとの協力で、血圧測定や相談会を行い、健康について考える意識を高めている。 ● 子育ての分野 地域のひろばが子育ての相談窓口となり、子育ての悩みを話し合える場所として定着してきたと思います。 ● 安全の分野 各校区の防災訓練が活発におこなわれている様子は、いずれくるかもしれない災害について深く考える方が増加していると思いますが、その反面、自治会の加入者の減少がとても気になる所であります。
<p>竹井 進</p>	<p>安全分野、特に治安においてKPI数値のばらつきがあり改善の必要性を感じます。進化するサイバー犯罪、技術革新に伴い発生する新たな犯罪への迅速な対応が図られなければならない。</p> <p>地域の防犯性の向上等により、犯罪の起きにくい社会づくりをパトロール、効果的な情報発信、犯罪情勢分析等、安全・安心に暮らせるまちの実現をめざし、目標達成に向けて取り組んでほしい。</p>
<p>田重田 勝一郎</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 子育て分野における達成度の評価については目標の54%となっているが、その中身を評価することが必要ではないでしょうか。なにが区民に評価されて5.4ポイント上昇したのか、逆に何が評価されなかったのかを踏まえて評価する必要があると思います。安全分野の治安に関する不安の指標も同様です。 ● 全体的に、この文字数での評価で正しく評価できたかどうかを判断するのは難しいと思います。それぞれの指標について、調査結果の分析をどのように行ったのか、何を根拠にどのような考察がなされたのかがこの資料だけでは不明なので、次の目標値を決めるにあたってはもう少し詳細な分析・評価を行う必要があるのではないのでしょうか。
<p>巽 真理子</p>	<p>子育ての分野における指標については、計画策定時より伸びているが、年度によってばらつきがあることの要因を調べておいた方がよいと考える。</p>
<p>谷村 修</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 歴史文化分野の「歴史文化資源を身近に感じることができるまちだとおもいますか」の指標が11ポイント上昇していることは、区役所での注染・和晒の取り組みなどがあり、上昇が納得できる数値だと思った。 ● 環境分野における指標については、深井駅周辺など花が目につくことが多くなった印象があるので、数値が上昇していることは妥当だと思った。 ● 安全分野における「治安に関する不安が少ないまちだと思いませんか」の指標が年度により数値のバラつきが大きいことに疑問を感じた。

仲氏 昌平	<ul style="list-style-type: none"> ● 安全の分野における指標については、中堺警察署が新しく出来たことで区民のみなさんにおいては精神的な安心につながっているものの、特に治安に関して思ったより現状値が低いと思います。一部地域では街灯数が少なく人通りも少ないため、犯罪や事故の起こりにくい環境整備が必ずしも達成しているとは考えにくい。 ● 交流の分野における指標については、区民フェスタや様々な取組を進めていることを知っていたので、現状値が高いことは妥当だと感じる。
中辻 さつ子	<ul style="list-style-type: none"> ● 防災の分野では、地域でも防災士の資格取得が増えたり、関心が高く訓練を一生懸命やっているのので、指標の数値が上昇していることは妥当だと感じる。 ● 防犯の分野では、こどもの登下校の見守り活動や毎週金曜日の晩に防犯活動を地域の取組として行っていて、防犯の認識が深まっていると感じている。
松居 勇	<ul style="list-style-type: none"> ● 歴史文化の分野における「堺市は文化・芸術活動をしやすいまちだと思いますか。」の指標について、現状値の低さが際立っている。 ● 同様に、環境の分野における「堺市はまちなみの美しさに満足できるまちだと思いますか。」の指標について、数値が上昇しているとは言え現状値が高いとは言えない。 ● 安全の分野における「堺市は治安に関する不安が少ないまちだと思いますか。」の指標について、数値が低水準のままほとんど変動していないことが課題だと言える。
森田 裕之	<ul style="list-style-type: none"> ● 各指標を評価するに当たっては、市民意識調査の回答者の性別、年齢別の属性を踏まえて確認する必要がある。 ● 歴史文化資源の指標について、現行計画策定時から10ポイント以上も上がっている。区の取組は実施してもらっているが、要因が分かりづらいところである。
小西 響	<ul style="list-style-type: none"> ● 質問項目が「思いますか？」という感覚的な質問より、「いますか？」などといった具体的で確実に答えが有り無しでできるものが良いと考える。 ● 数値が下降したり、上昇した理由がわかるようなデータ、例えば、安全の項目:治安については、事件の発見件数などの指標があると良いと考える。 ● また、他の区と比べてどうなのかという指標があるとみやすいと思う。
堤 朋子	<ul style="list-style-type: none"> ● 子育てがしやすい街だと思いますかという質問は、本人の主観により回答するため同一人物からの回答でないので一概に比較することは難しいですが、計画策定時も現状もどちらも値が低いように感じました。 ● 堺市の安心安全に関する指標と防災訓練の因果関係に関して断定することはできないと感じますが、上昇している傾向はいいことなので引き続き取組を進めてほしいです。 ● 街並みの美しさに関しての指標は、元がもともと非常に低く、上昇はしたがまだまだ低いと思いました。 ● その指標に関しても、上昇した要因に関しては市民意識調査に回答した人に個別に質問しないとわからない問題のように感じました。

山口 睦季	<p>全体的に現行計画のKPI達成状況について、各指標における評価は正しくできていたと思う。</p> <p>子育てカテゴリーに関しては、この政策会議でも何度も話題にあがっており、その度に活発な意見交流・提案が為されていたため、そこからのポジティブな影響が出ているのでは無いかと感じた。</p> <p>また、交流カテゴリーにおいて、この政策会議の学生部会が大学のボランティアセンターで行われ始めたことも、近年生まれた地域交流の1つであり、この区が地域との関わりを意識していることが感じられる。</p>
桂 恵輔	<ul style="list-style-type: none"> ● 子育ての分野ではR3年度からR5年度までの分野別事業が27事業、うち15事業で総合評価Aと取組が活発であったが、KPIの目標に達しておらず、現状値が低い。 ● 福祉の分野でもR3からR5にかけて19事業実施され、うち11事業でA評価だがKPIはむしろ低下しており、区の実績がKPIの指標に反映されていないように考えられる。 ● 安全の分野ではR3からR5にかけて21事業行われたが、うち8事業でC評価と課題が残っていることから、KPIが目標値に達していないことは妥当にも感じる。 ● 全体として、大まかな指標にはなっているものの、事業達成による効果を正確に評価はできていないように思う。
真栄田 愛花	<p>環境の分野における「堺市はまちなみの美しさに満足できるまちだと思いますか。」「ごみの減量やリサイクルに取り組んでいますか。」については、区として深井駅前の景観を美しくするためのイルミネーションや、花壇の管理など、様々な取組を進めていたと思います。そのため、ポイントが上がったことについては妥当であると考えています。</p>

Q2 Q1を踏まえ、各要素の取組の方向性や方針、成果指標（KPI）における見直しの必要性、見直すべき内容についてご意見ください。

伊藤 久美子	<ul style="list-style-type: none"> ● 子育て分野においても前年と比べて少しすすんでいるようには思われるが、まだまだ6割の満足度という点から、より一層子育てしやすい町づくりへの指標を明確化し、具体的には安心して遊べる場所づくりなど、今後の再開発に期待している。 ● 福祉の分野においては、区や指導員を通じてかかりつけ医による地域医療を推進しようとしているが、思ったようにかかりつけ医への地域医療が進んでいないことを踏まえ、もう少し、具体的な推進方法や相談員の役割も踏まえて見直す必要があるのではないのでしょうか？
今西 千晶	<p>正しく評価できるような調査方法を検討する。 調査に応じてもらうためには色々なところと連携をしていく。個人情報への壁があり容易ではないかもしれませんが、正しく評価していくために必要があると思います。本人や家族から情報を得られない場合は、介護保険課や障害福祉部や地域包括支援センターや保健センターや病院や地域のケアマネジャーや相談員などから協力を得ることができればよいのではないかと考えました。情報をもらうことでなくても、ご本人や家族に必要性を周知してもらい一緒に話をしてもらうことも有効だと思います。</p>
太田 佳世	<p>歴史文化、芸術活動をしやすいまちのところが他より低いのですが、事業が一般人に知られていないのか内容がわかりにくく、活動しやすいにつながりにくいのか気になる。</p>
金澤 正巳	<ul style="list-style-type: none"> ● 自治会加入につなげるためには、まずは、自治会の活動を知ってもらうことが大切である。例えば、地域のお祭りや運動会などのイベントに参加してもらい、活動を知ってもらうことで加入するきっかけになれば良いと思う。自治会加入が促進されれば、交流、安全といった分野が向上するのではないかとと思う。 ● 深井駅周辺地域活性化事業が重点事業になることは良いと思う。水賀池公園の整備により、交流の分野をはじめ、様々な分野が促進されることを期待したい。 ● 各分野は連動していくと思う。例えば、高齢者が健康になれば、スポーツをしたり、地域活動に参加したりして新たな交流が生まれる。1つの分野に1つの取組ではなく、1つの取組が様々な分野に影響を及ぼすような、そのような取組を実施していけたら良い。
澤本 美奈子	<ul style="list-style-type: none"> ● 自治会に加入する事で、たくさんの情報が得られて、困った時に助け合える、協力しあえる環境が安全、安心につながる事を知っていただきたいです。 ● 歴史文化の分野で、中区役所で行われる注染・和晒のイベント以外で、いつでもふれあい、購入でき、身近に使えるような注染・和晒にしてほしい(使い心地がとても良い事をたくさんの方に知ってほしい。)

竹井 進	<ul style="list-style-type: none"> ● リサイクル分野において個人に出来る事として資源循環、脱炭素を自分事として考えるためには直接かかわる事が大事だと考えられる。 ● 現在、家庭用の廃棄用油の多くは廃棄されており、家庭から排出される廃食用油を回収する「Fry to Fly Project」は、航空燃料として従来の燃料に比べ温室効果ガスの削減が期待できる。 ● また、堺エコポイント事業との連携も含め資源化促進の情報発信も積極的に進めてほしい。
田重田 勝一郎	<p>歴史文化分野の文化・芸術活動をしやすいまちという指標について、もともとの数字がとても低く、上昇率も低いです。市民が文化・芸術活動をしにくいと思っているのか、それとも関心がないのか、「文化・芸術活動」という文言が具体的に何を指すのかがわからなくて高い評価に繋がりにくいのかなどを分析して、調査される側（市民）が評価しやすい、具体的な指標にする必要があるのではないのでしょうか。</p>
巽 真理子	<p>子育て分野については、母親に限らず、男性も産後・育児うつが社会課題となっていることから、父親を対象とする子育て支援策も考慮したほうがよい。</p>
谷村 修	<p>安全分野において、高齢者単独世帯が増えていくこと、より巧妙な高齢者を狙った特殊詐欺も増えていることから、その対策の取り組みも必要かと思った。→大阪府警「オバスターズ」や、堺区学生ボランティア「私たちも見守り隊」など</p>
仲氏 昌平	<ul style="list-style-type: none"> ● 「福祉の分野別要素における、かかりつけ医の指標が高値であり、ほぼ達成しており、別の指標を検討したほうが良い」 主な取り組み方針の就労を通じた自立支援やその他、不登校支援など 提案例・母子・父子家庭や生活保護世帯や障がい者など多様化した背景の中でも就労を持続できる仕組みづくりや不登校の増加に伴う、学びの多様化など ● 犯罪や事故の起こりにくい環境整備や取り組み 提案例・警察との情報の共有における犯罪の予防(空き巣やひったくりなど)
中辻 さつ子	<ul style="list-style-type: none"> ● 地元校区で週2回開催しているふれあい喫茶は、自治会加入の有無に関わらず誰でも参加してもらえるようにしている。垣根をなくして誰でも参加できることが大事だし、それを声掛けできる中心となる人が必要である。また、他のイベントと組み合わせると人が集まりやすいようにしている。そういった工夫を凝らすことで交流が促進すると思う。 ● 深井駅周辺地域活性化事業については、交流の分野をはじめ、様々な分野で良い取組を進めていてもらいたい。 ● 全般に関する意見だが、変えることはばかりではなく、中区でこれまでやってきた事業の中で良いことは今後も継続してもらいたいと思う。
松居 勇	<p>深井駅周辺地域活性化事業を「将来像実現のための重点事業」として位置付けるのであれば、その成果を評価するためにも指標等を具体的に設定した方がいいのではないだろうか。</p>

森田 裕之	<ul style="list-style-type: none"> ● 各分野における指標は、1つになると偏る可能性があるのでは、2つ以上ある方が良いのではないか。 ● 子育てがしやすいまちだと思いますかといった指標は漠然としすぎているので、もう少し具体化できれば良い。
小西 響	<ul style="list-style-type: none"> ● 子育ての指標や街並みのきれいさなどの指標は他の区と比べてどれくらい良いのかといった相対的な評価をする必要があると思うので区民以外の意見を取るような場があっても良いと考えた。 ● 交流の項目で地域活動が活発かどうかを問う質問をしているが、これは地域活動が及ぼすであろう効果が交流が増えるということだと思うので、直接的な指標にすることが良いと思う。 ● 次期堺市中区地域計画の変更点として水賀池公園の事業があるので水賀池公園整備の開業前と開業後の変化などがわかる指標があるといいなと思った。
堤 朋子	<ul style="list-style-type: none"> ● 子育てがしやすいまちですかという質問は、回答者によってとらえ方が異なり回答しづらいように感じるので、別の項目に変更してもいいのではないかと思います。 ● ごみの減量に関する質問は、個人として見栄を張った回答をしてしまう可能性のある聞き方なので、ごみの分別に取り組みやすい制度が整っていますか？ヤリサイクルに取り組むことが日常的になっていますか？のように少し変えたほうが良いと思います。 ● 文化芸術活動という言葉が抽象的過ぎて、例を出すなど分かりやすく聞いた方が回答しやすいと思いました。 ● 堺市に対する愛着、シビックプライドがあるのかを聞く質問があっても面白いのではないかと考えました。
山口 睦季	<p>評価における目標値設定、特に安全カテゴリーの「災害」について、もう少し高い目標値を設定するのも良いかと感じた。</p> <p>政府の地震調査委員会は今年1月、マグニチュード8～9程度が想定される南海トラフ巨大地震の30年以内の発生確率をこれまでの「70～80%」から「80%程度」に引き上げたと発表している。これを踏まえると、公助機能がダウンした被災下で、生き延びるに十分な自助力・共助力を少しでも高めておくべきだと言える。</p> <p>もちろん他のカテゴリーも重要ではあるが、現状に満足せずに向上を重ね続ける必要があるという意味において、特に災害に対する意識は強く持つておくのが良いかと思う。</p>

<p>桂 恵輔</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 子育てに関するKPIは多数の取組にも関わらず、目標に達していない。KPIの指標として「子育てしやすい街かどうか」を聞いているが、現在子育てをされている方々と、子育てを現在されていない方々の間には認識の乖離がある可能性がある。子育てをされている方々から見た子育てのしやすさを指標にできないか。 ● 安全の分野では、市民の声として市民意識調査の結果を指標とすることは重要であるが、実際に区内での事件や事故がどの程度減少しているかといった客観的な指標も加えられるとよい。
<p>真栄田 愛花</p>	<p>福祉の分野における「日頃から診療や相談ができるかかりつけの医師はいますか。」については、生活の中でも「健康」にクローズアップされている印象があります。</p> <p>そのため、中区の中で孤立している人の割合が正確に把握しにくいのではないかと考えます。少子高齢化が進む社会情勢の中で、孤立死が問題となってきたことや、共働き世帯の増加による子育て世代の孤立化、また子どもの貧困といった様々な問題が出てきているため、「孤立している人はいないか」を区として把握することは極めて重要だと考えています。</p> <p>そのため、指標の中に、「生活」にもクローズアップできるものがあれば良いと思います。</p> <p>例えば、健康の分野における「健康や介護など日常生活における困りごとについて、相談に乗ってくれたり、助けてくれる人が身近にいますか。」のように、「困ったときに相談しようと思える機関や人はいますか。」というような指標を作ることで、中区の中でも孤立している人の割合をより正確に表すことができるのではないかと考えます。</p>